

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年 2月 29日

事業所名 ちゃんぷる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		人数が多い時は、外遊びをするなどして、空間に余裕を持てるようにしている。	
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		段差をなくするのが難しい箇所があるので、机やおもちゃ箱などの配置を変えてみる、付近では必ず職員がしっかり見守りが出来るようにするなどの対応を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		正職員のみでなく、必要に応じてパートの方に意見を求めたり児童の細かい様子を聞いたりしながら物事を考え、共有できるようにしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		毎年アンケート結果を参考に、改善すべき点があるのかなど現状を理解するために会議を実施している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		法人全体で第三者委員を委嘱し、定期的に法人遍歴・活動について報告し、助言をもらっている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		新人研修や虐待研修、必要に応じた社内研修を実施している。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		日々の聞き取りの内容などを参考に事業所内でのケース会議を行った上で、子どもと保護者の課題やニーズを検証し、支援計画を立てている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	必要に応じて、話し合いの中で行動分析をして記録している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		長期休みやイベント事などがある場合は、事前に話し合い活動の計画を立てるようにしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		事業所の方針で、細かな課題設定はしていない。日々の遊びの中で楽しみながら、興味や感性の幅が広がったり人に対する安心感だったりを得てもらえるように関わることに重きを置いていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日々、打ち合わせ・準備は欠かさず行うようにしており、長期休みなど時間が取れない時には前日の夜に翌日の打ち合わせをするようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		日々、振り返り・反省を欠かさず行うようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の個別記録以外に、振り返りノートを作ることで、支援の検証がしやすいよう工夫している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリングの結果は懇談という形で保護者の方に説明するようにしている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		
関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議には参加し、また、会議でない時でも相談支援事業所と連絡を取り連携を図っている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		必要に応じて、電話や送迎時に学校及び保護者と確認している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医療的ケアを必要とする児童がいないが、てんかん発作などがある児童もいるので、必要に応じた連絡方法を整備している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		法人内の相談支援事業所との連携の元、情報共有している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		法人内の相談支援事業所と連携を取りながら、必要に応じて情報提供はできている。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		

	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		近隣の公園で、一緒に遊びたいと声を掛けてくれる子ども達がいると、集団遊びを提案し一緒に遊んでいる。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		法人代表が参加しているので、情報共有をしている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳でのやり取り、必要に応じた電話対応、その他にモニタリングの時期に合わせ懇談も実施している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			各職員の知識不足もあるので、職員が研修等で学ぶことで、支援が行えるようにしていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		不定期ではあるが、会報の発行は行っている。また、SNSを活用した発信をしていく予定。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報を含む書類等に関しては、鍵付きロッカーで厳重に保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		お知らせなどの書面にはルビ振りを必ず行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		行事などは行えていないが、近隣の方々へのあいさつなどはしっかり行うようにして、交流を図るよう心掛けている。	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			マニュアルの改訂を行い、改めて保護者に周知するため、書面での配布やHPへのアップなど方法を検討する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		阿倍野防災センターなど外部へ出向いて災害について学ぶ機会を設けている。	・地域の防災訓練への参加、平日の避難誘導の訓練などを行うようにする。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止研修は、全職員が受講している。	

非常時等の対応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	アレルギーのある子どものリストを作成し、おやつや調理活動の提供の際に参考にしながら内容を決めている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		より細かく事例があがってくるように、日々の振り返りの中でヒヤリハットについて話す時間を設けていく。
	44	新型コロナウイルス感染予防対策について、十分な対応がとれているか	○		